

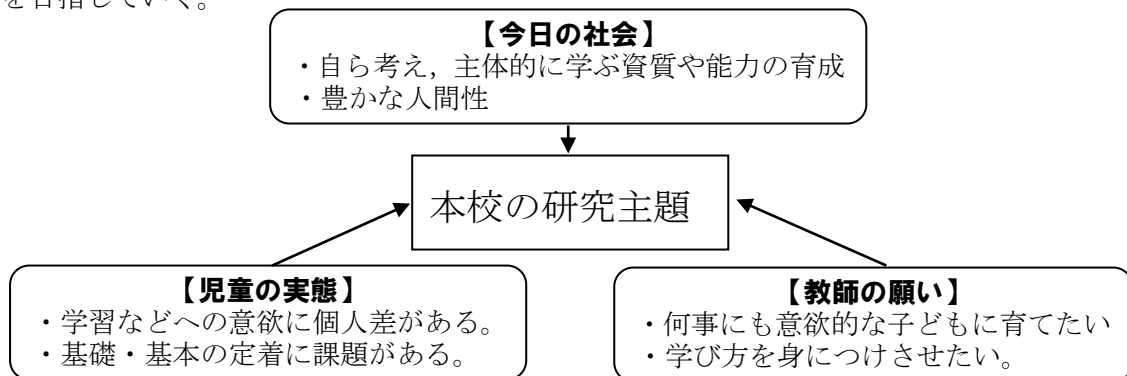
1. 研究主題

「学び方を身につけ、見通しをもって意欲的に学ぶ子どもの育成」
～複式学級における算数科授業づくりを通して～

2. 主題設定の理由

本校では、平成22年度から平成24年度までの3年間、「生き生きと学ぶ子どもの育成～複式学級における授業づくりを通して～」を研究主題に意欲的に学習に取り組む態度の育成、課題を解決できる子ども、友達と交流して考えを深められる子どもの育成を目指して研究を進めてきた。その結果、リーダー学習などを通して、自分達で学習を進めることができるようになってきた。また、班などで友達と意見を交流できるようになってきたなどの成果があった。一方、学習などへの意欲や基礎・基本の定着の個人差が大きく、特に算数科で顕著であるなどの課題が挙げられた。

そこで、平成25年度から平成27年度の3年間では、これらの成果と課題、児童の実態を踏まえて、複式学級における算数科授業づくりに焦点を当てて、「学び方を身につけ、意欲的に学ぶ子どもの育成」を主題として設定し、研究を進めていく。研究を進めるに当たっては、算数科と特別活動の両面から課題に対して見通しをもって意欲的に学ぶ子どもを目指していく。



3. 目指す子ども像

目指す子ども像は、研究主題にもある通り、「学び方を身につけ、見通しをもって意欲的に学ぶ子ども」である。その子ども像を具体的には、以下のような子どもだと位置づけた。

- 何事にも意欲的に取り組む子ども
- 友達と交流し、考えを認め合える子ども
- 学び方を身につけ、課題を解決できる子ども

3. 全道へき地・複式教育連盟 第9次長期5か年研究推進計画との関連

<p>【分野】〈学習指導の深化・充実〉 地域に根ざした、主体的・創造的な学び合いにより「確かな学力」を育てる学習指導の創造</p>	
<p>〈課題6〉主体性を育てる学習指導過程の改善・充実 (1) 課題意識をもって主体的に学習に取り組む学習指導過程 (2) 児童生徒一人一人の多様な考え方や個人差・学年差に即した指導過程</p>	<p>〈課題7〉学ぶ意欲を高める指導方法の改善・充実 (1) へき地・複式教育の特性を生かした指導方法 (3) 学習効果を高める個別化・集団化などの指導方法</p>
<p>◎ 本校の研究 (1) → 「間接指導」の充実を図る「直接指導」の工夫（問題提示、発問、指示、板書の工夫、ノート指導） (2) → 定着を図り、考えを広げるためのまとめの充実（まとめを中心に考えた授業づくりの工夫）</p>	<p>◎ 本校の研究 (1) → 「わたり」「ずらし」の工夫（自学自習や学習リーダーによる学習の工夫） (2) → 系統的な学び方の共有化と指導（リーダーによる自主的な学習の系統化）</p>

4. 研究の仮説

<p>【仮説1】算数科において系統的な学び方を職員間で共有化し、学ぶ楽しさを実感できるように指導方法を工夫することで、学び方を身につけ、課題を意欲的に解決できる子どもに育てることができるであろう。</p>
<p>【仮説2】算数科において、考え・交流する場面を効果的に設定することで、他者の意見から、自分の意見を高め、学力の定着を促すことができるであろう。</p>
<p>【仮説3】算数科において、目標や目指す子ども像を明らかにし、適切に評価をすることで、他の授業や特別活動にも意欲的に取り組む姿勢を育てることができるであろう。</p>

5. 研究の内容

<p>研究内容1 指導方法の工夫と学び方の習得 ① 「間接指導」の充実を図る「直接指導」の工夫・問題提示、発問、指示、板書の工夫、ノート指導 ② 「わたり」「ずらし」の工夫・自学自習や学習リーダーによる学習の工夫</p>

◎問題提示から課題までの工夫

「問い」を持たせるような授業づくりを行うことで課題を意欲的に解決できる子どもが育成できると考える。ここでの「問い」とは、子どもから湧き出る疑問・必要感のある問題意識などである。「問い」を持たせるためには、子どもが「ズレ」を感じる必要がある。「ズレ」には、①友達との考えとのズレ、②予想とのズレ、③感覚とのズレ、④既習とのズレがあると考え、「ズレ」を意識させるような問題の提示、予想の導入、発問を意識している。

【実践例】1年生 「ぜんぶでいくつ」

学習内容 ・新学習P33の課題を用いて、場面について話し合う。 ・問題を記憶する。	教師の働きかけ ・問題を表示し、お話を聞きさせる。 ・問題を板書する。
問題 せんぶが3ひきいます。せんぶが3ひきいます。あわせるとなんひきになるでしょうか。	問題を板書する。
問題を記憶する。	問題を板書する。
問題 あわせるといくつは、どんなしきになるかかんがえよう。	
個人解決に取り組む。	「あわせると」という言葉に注目させ、練習と異なることに気づかせる。
グループワークを促して話す。	●自分で学習したことをもとめて発表し合うことが大切です。

「既習とのズレ」を生かして問いを持たせようとした実践例である。既習では「ふえるといくつ」という問題を行ってきたが、本時では、「あわせるといくつ」という問題を学習する。「あわせると」という言葉に着目させて、「既習とのズレ」を生じさせて、課題解決への意欲を高めさせようとした。

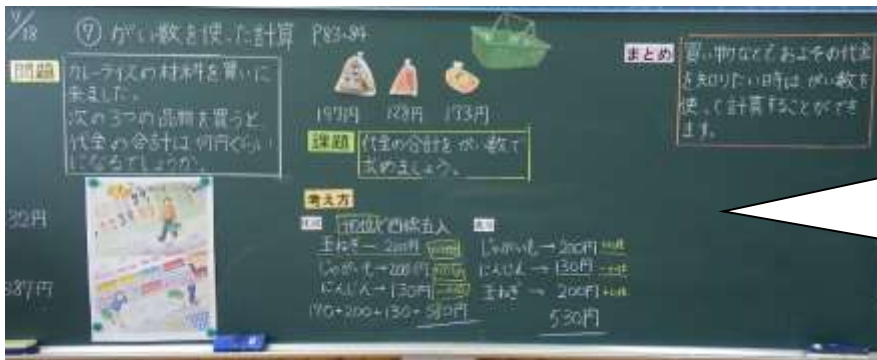
◎板書の工夫

問題を書く位置やまとめを赤チョークで囲むなどの板書のルールを全校で共通化することで、子どもへのノート指導と一体化し、思考の過程がわかりやすくなると考えた。また、学年が変わっても板書のルールが決まっているので安心して授業に臨めると考えた。

・問題解決的な学習の板書例 偶数学年の場合

○／○ (○) p○ 問題 *問題文は、白チョークで囲む。	課題 *課題は、黄色チョークで囲む。 *子どもが意欲的に取り組みたいくなるような課題を作る。	まとめ *まとめは、赤チョークで囲む。 *子どもの考えを生かしたまとめにする。
予想 *必要に応じて行う。 *予想をさせて、課題解決への意欲を持たせる。	考え方 *子どもの考えを書いたり、書かせたりする。 *考えは整理分類しまとめにつなげる。	練習・応用 *本時の学習の振り返りや応用・発展的な問題を行う。

【実践例】4年生 「がい数を使った計算」



問題，課題，まとめを色分けしてチョークで囲むことを全校で共通化し，わかりやすい板書を心がけている。

研究内容2 指導場面の工夫と定着の促進

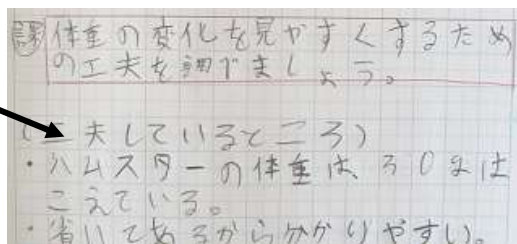
① 系統的な学び方の共有化と指導 ・リーダーによる自主的な学習の系統化

② 定着を図り考えを広げるためのまとめの充実・まとめを中心に考えた授業づくりの工夫

◎個で考える場面での学び方

算数科の課題解決に向けて自分の考えを書く場面では、どのように書いたらわかりやすいかを以下のように具体的に教えている。具体的に教えることで、自分の考えを論理的に書けるようになってきている。また、相手にも伝わりやすい内容になってきた。

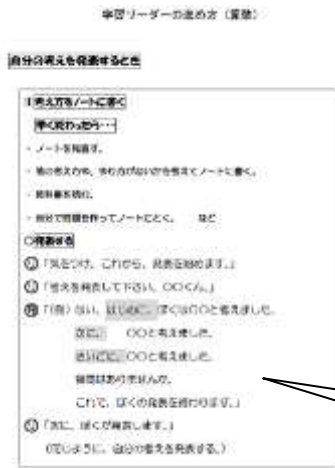
- ① 一文は、短く書き、内容は一つに絞る。
- ② 接続詞を効果的に活用する。
- ③ 算数の学習用語を活用する。



◎リーダーによる自主的な学習の系統化

発達段階に合わせた学習リーダーの役割と話し合いなどの自主的な学習を系統化することで、6年間で学び方が身につくと考えた。今後、学習リーダーを中心に鍛えて、自主的な学習が深まるようにしていく。

	1・2年生	3・4年生	5・6年生
リーダー	・手引きに沿って話し合いを進めることができる。	・手引きを踏まえ、相手の考えの良さも引き出しながら、話し合いを進めることができる。	・臨機応変に話し合いを進めることができ、グループの理解を深めることができる。
話し合い	・自分の考えを発表できる。 ・相手の考えに簡単な感想が言える。	・自分の考えを発表できる。 ・相手の考えの良さを発表できる。	・自分の考えを発表できる。 ・自分の考えと相手の考えをまとめたり、よりよい考えに向けて話し合ったりすることができる。



考えを発表している場面 (中学年)

学習リーダーの手引き (中学年)

実際に切った図形を示して説明している場面 (高学年)

研究内容3 教育課程と授業の改善

- ① 子どもの成長をイメージした算数科や特別活動への取り組み
 - ・算数や行事で目指す子ども像への手立てと成果の確認
- ② 授業評価・各種学力調査の授業改善への活用
- ③ 授業に生きる研修の充実
 - ・複数回の授業交流、実技研修

◎算数ふりかえりシートの活用 (算数科の各単元末の算数科の授業評価)

質問内容	評価
1 算数の勉強は、好きですか。	④ 3・2・1
2 算数の授業はよくわかりますか。	④ 3・2・1
3 自分の考えを発表できましたか。	④ 3・2・1
4 わからなかったところに聞くことができましたか。	④ 3・2・1
5 ノートを丁寧に工夫して書くことができましたか。	④ 3・2・1
6 自分から進んで学習を進めることができましたか。	④ 3・2・1
7 授業でわかるまでじっくり考える時間がありましたか。	④ 3・2・1
8 先生は、がんばっていることを褒めてくれましたか。	④ 3・2・1
9 授業の勉強の楽しさを覚えましたか。	④ 3・2・1
10 自分な考え方を身につけようと思いましたか。	④ 3・2・1

算数の各単元が終了後に、単元の授業評価を実施している。

昨年の2年生の1学期の授業評価の結果である。結果を授業改善に生かしている。

